

第50回企業経営に関するアンケート調査結果 引続き厳しさを残るものの、見通しに回復感

東北経済の動向と企業経営の実態を把握し、国の政策に対する要望など今後の委員会活動の参考に資するため実施している「企業経営に関するアンケート調査」の結果がまとまりましたのでご報告いたします。

13年度下期実績では、景気が「上昇した」と判断した企業は全体の1.5%、「下降した」と判断した企業は同73.7%となり、DI値は72.2となりました。前回調査(DI: 72.8)に比べプラス0.6ポイントと、ほぼ横ばいで推移しました。

一方、14年度上期見通しについてはDI値が40.9で、前回調査(DI: 70.1)に比べ29.2ポイントの大幅な上昇となり、厳しさが緩むとの見方が示される結果となりました。

企業生産の回復傾向が、見通し景況感を改善させた大きな要因と思われませんが、東北経済は個人消費・企業設備投資・雇用情勢などで未だ厳しい状況が続いています。

この様な中、企業は経営施策として引続き「コスト削減」を重視していますが、一方で、「販売シェアの拡大」や「生産性の向上」に重点を置き始めるなど、徐々に変化が現れています。

A. 調査要領

1. 調査対象

当会会員のうち金融・保険業、電力・ガス熱供給・水道事業を除く279社

2. 調査時期

(配布)平成14年4月3日

(回収)平成14年4月19日

3. 調査方法

郵送によるアンケート方式

4. 調査対象期間

(実績)平成13年10月～14年3月期

(平成13年4月～13年9月期に比べ)

(見通し)平成14年4月～14年9月期

(平成13年10月～14年3月期に比べ)

5. 回収方法

[業種別内訳] (内製造業)(内非製造業)

発送社数 279社 (131社)(148社)

回答社数 198社 (89社)(109社)

回答率 71.0% 67.9% 73.6%

[県別内訳]

| | 青森 | 岩手 | 宮城 | 秋田 | 山形 | 福島 | 新潟 | 合計 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 発送社数 | 28 | 29 | 90 | 28 | 36 | 29 | 39 | 279 |
| 回答社数 | 24 | 19 | 68 | 19 | 28 | 19 | 21 | 198 |
| 回答率% | 85.7 | 65.5 | 75.6 | 67.8 | 77.8 | 65.5 | 53.8 | 71.0 |

B. 調査企業の概要

1. 資本金別構成

| 資本金 | 回答数 (社) | 構成比 (%) |
|-------------|------------|------------|
| 50百万円以下 | 39 | 19.7 |
| 51～100百万 | 46 | 23.2 |
| 101～300百万 | 27 | 13.6 |
| 301～1,000百万 | 27 | 13.6 |
| 1,000百万超 | 59 | 29.8 |
| 合計 | 198 | 100.0 |

2. 従業員別構成

| 従業員数 | 回答数 (社) | 構成比 (%) |
|------------|------------|------------|
| 50人以下 | 11 | 5.6 |
| 51～100人 | 32 | 16.2 |
| 101～300人 | 59 | 29.8 |
| 301～1,000人 | 69 | 34.8 |
| 1,000人超 | 27 | 13.6 |
| 合計 | 198 | 100.0 |

3. 業種別構成

| | 発送数 (社) | 回答数 (社) | 回答率 (%) | 構成比 (%) |
|-------------|------------|------------|-------------|-------------|
| 製造業 | 131 | 89 | 67.9 | 44.9 |
| 食・飲料品 | 23 | 15 | 65.2 | 7.6 |
| 木材・木製品・家具 | 5 | 4 | 80.0 | 2.0 |
| パルプ・紙・同加工品 | 8 | 4 | 50.0 | 2.0 |
| 化学 | 10 | 7 | 70.0 | 3.5 |
| 石油・プラスチック製品 | 5 | 3 | 60.0 | 1.5 |
| 窯業・土石 | 8 | 5 | 62.5 | 2.5 |
| 鉄鋼 | 6 | 5 | 83.3 | 2.5 |
| 非鉄金属 | 6 | 4 | 66.7 | 2.0 |
| 金属製品 | 11 | 8 | 72.7 | 4.0 |
| 一般機械・輸送機械 | 14 | 9 | 64.3 | 4.5 |
| 電気機械 | 29 | 21 | 72.4 | 10.6 |
| その他製造 | 6 | 5 | 83.3 | 2.5 |
| 非製造業 | 148 | 109 | 73.6 | 55.1 |
| 運輸 | 20 | 15 | 75.0 | 7.6 |
| 卸・小売 | 55 | 47 | 85.5 | 23.7 |
| 不動産 | 7 | 5 | 71.4 | 2.5 |
| その他サービス | 19 | 8 | 42.1 | 4.0 |
| 鉱業 | 5 | 2 | 40.0 | 1.0 |
| 建設業 | 42 | 31 | 73.8 | 15.7 |
| 合計 | 279 | 198 | 71.0 | 100 |

C.調査結果の概要

・景気動向

1.東北地方の景況感

〔実績〕

引続き厳しい状況続く

東北地方の景況感をみると、13年度下期において景気が「上昇した」とする企業は1.5%（前回調査13年10月：2.1%）、「下降した」とする企業は73.7%（同：74.9%）D I値では72.2となり、前回比プラス0.6ポイントと横ばいで推移した。内外需要が低迷する中、在庫の調整が続き企業生産が低調であったことが大きな要因と思われる。

〔注〕DI=Diffusion Index：上昇-下降(回答企業割合)

〔見通し〕

回復を見込む

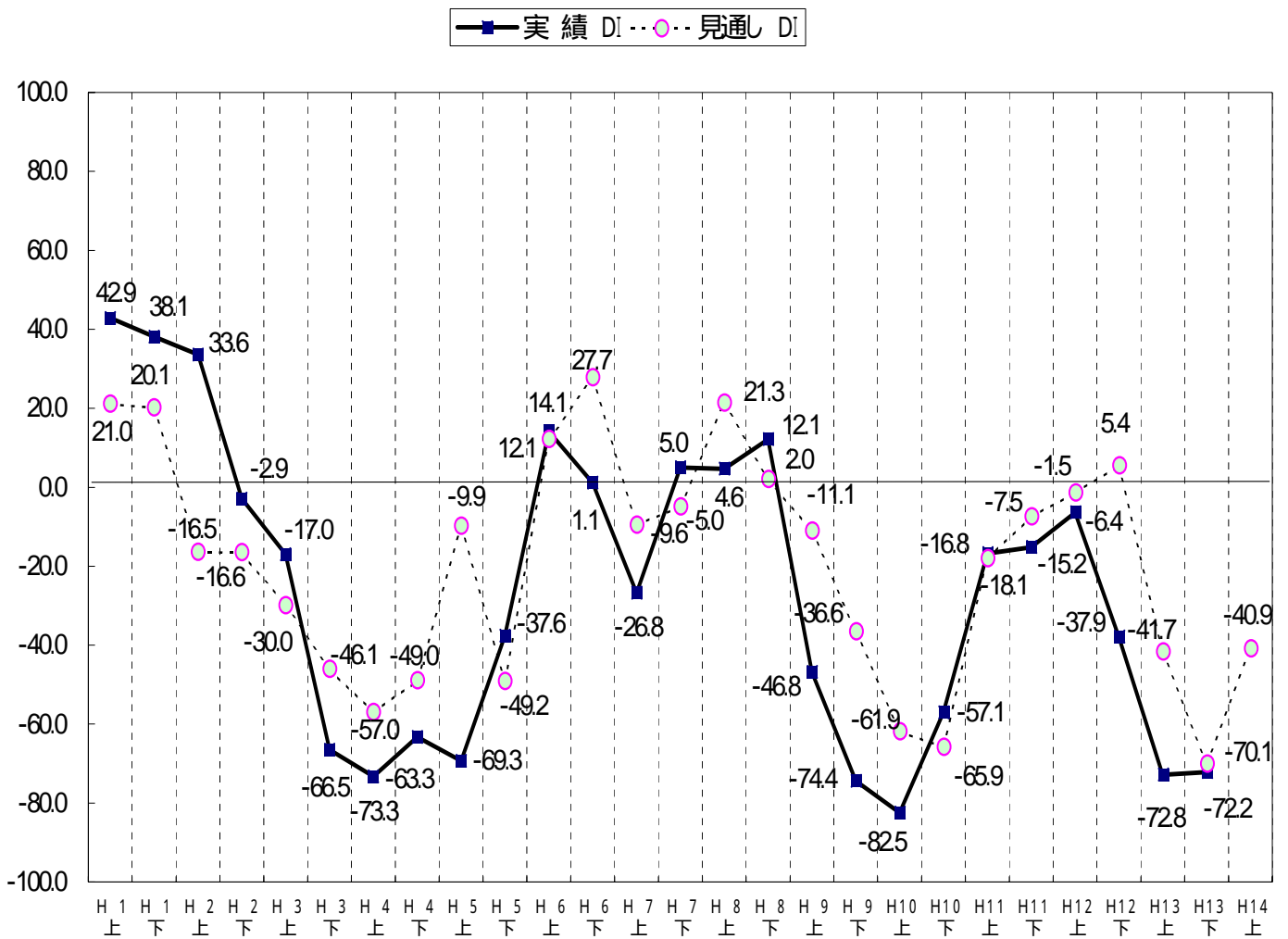
14年度上期の景気見通しでは、「上昇する」が7.6%（前回調査：0.5%）、「下降する」が48.5%（同：70.6%）で、D I値は40.9となり、前回調査より29.2ポイント改善された。在庫調整の進展と企業生産の回復傾向などから、先行きに対して厳しさが緩むとの見方が示された。

〔景気D I見通し・実績対比〕

見通しと実績が一致

景気D Iの数値を見通しと実績との比較でみると、13年10月実施調査における13年度下期の見通しD I値70.1に対し、今回調査の同期実績D I値は72.2となり、見通しと実績がほぼ一致した。

東北地方の景気動向D I推移グラフ(実績・見通し対比)

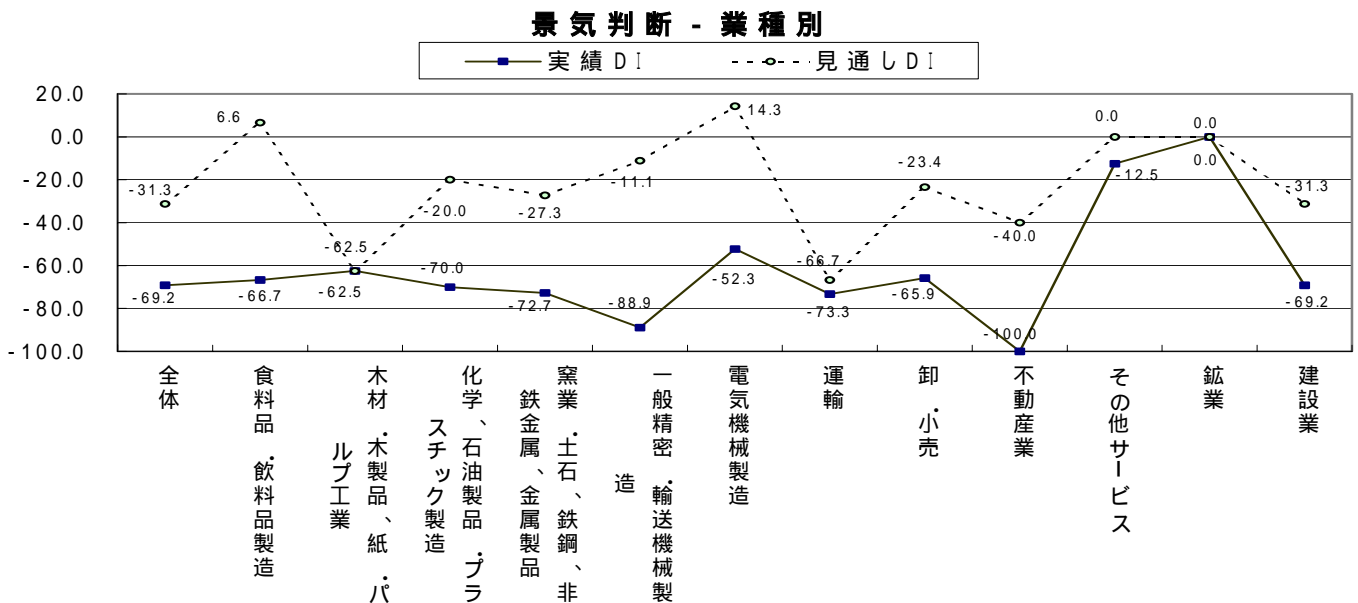


2. 業種別の景況感

自社業界の見通し景況感は、ほぼ全業種で改善

自社業界の景況感をみると、13年度下期において景気が「上昇した」とする企業は3.0%(前回調査:1.6%)、「下降した」が72.2%(同:69.1%)となった。DI値では69.2と前回の67.5に比べマイナス1.7ポイントとほぼ横ばいとなり、東北全体の景況感と同様に引続き厳しい結果を示した。

一方、今期の見通しでは「上昇する」が11.1%(前回調査:1.1%)、「下降する」が42.4%(同:66.8%)で、DI値は31.3となり、前回調査と比べプラス34.4ポイントの大幅改善となった。業種別にみると、東北の生産面で全体に占める割合の高い電気機械製造業や食料品・飲食品製造業でDI値がプラスに転じたのを始め、ほぼ全業種で改善している。



経営環境

1. 売上高 下期実績は前回を下回るも、回復見通し

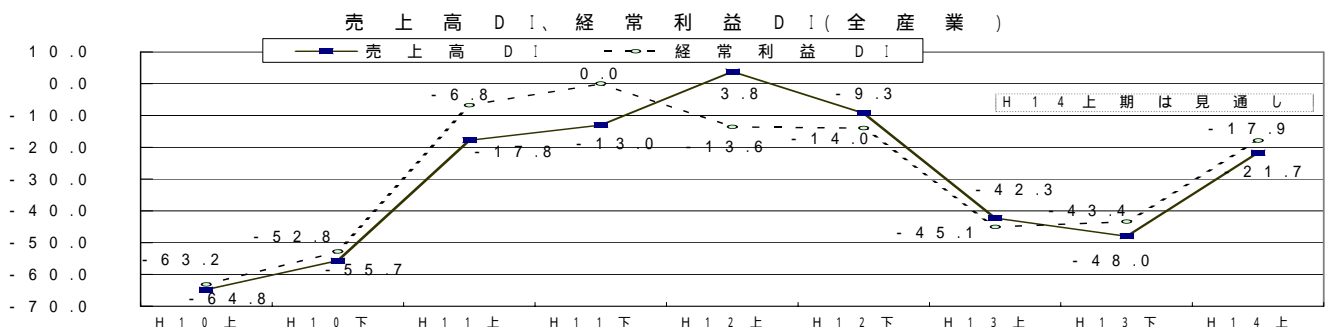
売上高についてみると、13年度下期実績では「増加した」が17.2%(前回調査:14.4%)、「減少した」が65.2%(同:56.7%)、DI値は48.0で前回の42.3から5.7ポイント低下した。

今期の見通しでは、「増加する」が21.2%、「減少する」が42.9%、DI値は21.7(前回調査:47.7)と、前回より大幅に改善した。

経常利益についてみると、13年度下期実績では「増加した」が16.3%(前回調査:18.5%)、「減少した」が59.7%(同:63.6%)、DI値は43.4で前回の45.1からプラス1.7ポイントとほぼ横ばいで推移した。また、全ての業種で実績DI値がマイナスとなった。

今期の見通しでは、「増加する」が21.9%、「減少する」が39.8%で、DI値は17.9と前回調査と比べプラス33.7ポイントとなり、企業収益は改善傾向にあると読み取れる。

2. 経常利益 見通しは改善を示す



経営施策

経営上特に関心の強い事項（複数回答）

経営上特に関心の強い事項について全産業で比較すると、コストの削減」が前回調査同様トップで回答企業のほとんどが強い関心を持っている。次いで、「販売シェアの拡大」「生産性の向上」「財務体質の強化」「人材育成」（下図項目の配列順と同じ）と続いている。

製造業では、「新製品・技術開発、新サービスの提供」に関心を持つ企業が多いが、近年産業再生の鍵として期待されている「産学官での連携」への関心は未だ薄い。

また、非製造業では「人材育成」に関心が強い企業が多く、「ITへの対応」への関心も根強い。

